

市花愛好会だより

発行 亀岡市花愛好会

事務局 公益財団法人 亀岡市都市緑花協会

〒621-0014 京都府亀岡市吉川町穴川背戸田29

TEL(0771)23-2289 FAX(0771)24-9195

つつじ

亀岡市花愛好会 会長



亀岡市長
桂川 孝裕

暦の上では秋となりましたが、まだ厳しい暑さが続いております。会員の皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

自然を愛し、美しいまちづくりを願う本市では、昭和四十年五月に「つつじ」を市の花に制定し、市花展示会をはじめとするさまざまな催しを通して、愛好会会員の皆様をはじめ市民の皆様とともに、緑花への輪を広げてまいりました。皆様の長年のご活動のおかげで、市内の至る所で美しい花々が咲き誇り、人々の心に安らぎと潤いを与えてくださっていることを、大変喜ばしく感じております。

さて、本市では、「全国都市緑化フェア in 京都丹波」が、いよいよ開催の運びとなりました。この会報が皆様のお手元に届く頃には、全国からの多くのお客様をお迎えし、開催の真っ只中にあること存じます。

今回のフェアでは、都市型の緑化フェアとは一線を画し、亀岡盆地特有の山々に囲まれた美しい原風景や、豊かな水と土壌で育まれた草花、農作物の魅力や存分に感じていただけるような趣向を凝らしております。皆様がいままで育んだ花と緑の文化こそが、このフェアを成功に導く大きな力であると確信しております。ぜひ会場へ足をお運びいただき、全国からお越しの方々と交流を通して、私たちの郷土、亀岡の魅力を再発見していただけますと幸いです。

最後になりましたが、市花の普及と緑豊かなまちづくりに日々ご尽力いただいております愛好会会員の皆様に改めて深く感謝を申し上げますとともに、市民の皆様の一層のご支援、ご協力をお願いいたします。私の挨拶といたします。



令和8年度 第61回亀岡市花展示会



第61回亀岡市花展示会が、5月29日から6月1日の4日間、ガレリアかめおかのロビーギャラリーにて華々しく開催されました。天候や手入れの具合により開花の時期を調整するのが難しい中、82鉢のつつじが展示されました。

競技花の部は、令和4年度に配布された「立山の舞（タテヤマノマイ）」で、4年間に渡り育てられた集大成を競い合いました。また、歴代の競技花を審査する特別展の部にも多くの出品がありました。丹精込めて育て上げられた作品が多い中、それぞれの部門における審査では、樹形や枝振り、花の咲き具合などを基準とした厳正な審査が行われた結果、以下の皆さんが受賞となりました。



また、つつじの管理方法や技術指導の相談に応じる栽培相談コーナーでは、技術指導員が行う剪定や針金による樹形の整え方などのアドバイスに、相談者が熱心に耳を傾けていました。



令和8年度 第61回亀岡市花展示会 入賞者



競技花の部



金賞
岩崎保雄
(東つじヶ丘)



銀賞
古藤肇
(北古世町)



銅賞
中野良一
(如野町)

特別展の部



市長賞
斎藤カオル
(北古世町)



市議会賞
小林トモ
(河原町)



商工会議所賞
岩崎保雄
(東つじヶ丘)



緑花協会賞
草野良一
(野良町)

先進地視察研修

市花愛好会では、栽培技術の向上と会員相互の親睦を図ることを目的とした先進地視察研修を行っています。

今年度は5月21日に兵庫県加西市の兵庫県立フラワースセンターにて開催された「第48回全日本早月会さつき展」を視察しました。展示されたそれぞれの作品の整形技術や養成技術を学ぶと共に、新しい技術の習得を意欲的に行うことで、市花愛好会の更なる技術向上につながる、亀岡市花展示会の進展に向けて研鑽を積むことができました。



【立山の舞（タテヤマノマイ）】

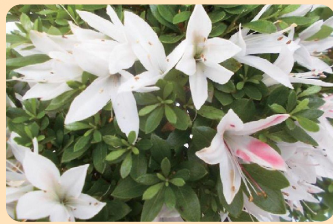
系統 白扇の舞×紫竜の誉
花形 切れの深い細弁、胡蝶咲き、中輪
葉性 照葉、中葉
花期 やや早咲き
登録年 91年（栃木県早月会）
登録者 同人
備考 本種のくぐすいトキ色地合が混じるものを「まひるの舞」と呼ぶ



競技花の紹介



さつきつつじ 年間手入れ方法



1月 人間にとってお正月は日常と違う特別な期間ですが、つつじには関係ありません。普段通りの管理を心掛けたいものです。品種によって、枝枯れや花芽が落ちることがあるので注意しましょう。寒さに弱い品種（貴公子系、護美綿系など）や秋に針金を掛けたもの、そして苗木は日当たりの良い場所に置き、夜は霜除けをしましょう。

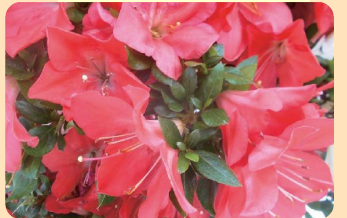
2月 冬場の管理で第一に注意しなければならないことは寒害ですが、もう一つ、用土の乾燥という大敵を忘れてはいけません。落葉や小枝の枯れなど、木から送られてくる救助信号を見逃さないで防いでください。灌水は3〜4日ごとに、必ず午前中に行うこと。関東以南では、下旬に油カス玉肥を苗木なら1個、成木では3個施肥します。

3月 針金での模様付けや深切り剪定に一番適した季節は、この月後半お彼岸の前後です。また、2月に施肥できなかった木に、この月10日頃までに施肥をします。特に樹を太らせたい場合には中旬から下旬にかけて追肥しますが、そうした目的のないものには与えてはいけません。水の通りの悪いものは植え替え。困った鉢は徐々に外気に慣らします。

4月 晩霜の心配はまだありますが、寒い地方でも簡単な霜除けで防げます。思い切って防寒設備を取り除き、日光をいっぱい浴びさせましょう。新芽が伸び始めたら、1日1回、午前中にたっぷり灌水してください。施肥は養生木以外にはしません。開花期までに肥料が切れっていると、花にシミがでたり、花腐れの害が出たりする原因になります。

5月 害虫の駆除に注意したい季節です。初旬のうちに殺虫剤を葉の裏まで十分に散布してください。早咲きの品種は、中旬から開花します。花前が開花期にかけては、木が最も水分を必要とする期間です。朝夕に充分灌水し、水を切らさないように注意したいものです。ただし、開花前の蕾や花にかからないようにすることが大事です。

6月 待望の開花期。ほとんどの品種が初旬に開花し、各地で展覧会が催されます。愛好家にとって1年で最も楽しい季節です。灌水は、1日2〜3回たっぷり。盆栽に仕立てる木は、樹の生長を助けるために早めに花を摘み取ります。花後に剪定をして、根が鉢いっぱい張ったものだけは植え替えをします。植え替えしなかったものだけに施肥を。



7月 灌水は朝夕の2回、葉にもかけるようにして行ってください。日中は、強い日差しを避けた風通しの良い場所に置きます。花後に植え替えをしたものは、朝日に当てる夜露を浴びさせることが管理面で大切なことです。油カス7に骨粉3の割合で練った玉肥（5g）を苗木2個、成木で4個ぐらい施肥します。害虫駆除の薬剤を定期的に散布します。

8月 日差しの強さが気になる季節ですが、気にしすぎて日除けなどで薄暗い状態にしておく、と花芽がつかず、翌年の開花を見られなくなることがあります。灌水は朝夕2回、晴天の日には、葉にもかけながら鉢底から水が流れるまで充分やってください。7月同様、殺虫剤を1週間おきに2〜3回、日中を避けて散布。

9月 この月の施肥によって樹は太るのですが、量は7月と同様です。例外としては、寒冷地の場合のみ、冬に樹皮のはがれや幹割れをおこす危険があるため、施肥はしない方が無難でしょう。樹全体に充分に陽の光を当てるように注意し、灌水は土の乾き具合を見ながら、たっぷりを与えてください。根元や幹の途中に出た徒長枝は切り取ってください。

10月 鉢の方向を変化させるなど種々の工夫を凝らして、日光を充分に全体に当ててください。霜が降る20日を目安に7月同様の施肥、殺虫剤と殺菌剤の薬剤散布を各1回行います。春のお彼岸の頃に針金掛けをしたものは、9月末から10月初旬にかけて取り外します。

11月 「花でよし、葉でよし」と言われるさつき。樹形とともに葉の美しさを楽しむ季節です。各地で秋季展が開催され、さつきの奥深いう一つの魅力、1年間丹精こめた培養の成果である葉の味わいを充分堪能し、感じとりましょう。成木は屋外で管理して差し支えありませんが、苗木は軒下。ただし、寒冷地では成木も防寒施設へ取り込みます。

12月 寒いからといって極端な過保護は禁物。春の開花を見られなくなるおそれがあります。花芽は秋に分化が終わり、この時期は休眠に入りますが、春に目を覚ますためには、ある程度の寒期間（0℃を2〜3ヶ月）を過ごす必要があるといわれています。灌水は2〜3日に1度、午前中に行います。10月の施肥（止め肥）を最後に肥料は与えないこと。



※この手入れ方法は、一応の基準を示したものですので、環境や培養木の状況などを考慮して工夫の上、最良の手入れを行ってください。

会員募集のお知らせ

亀岡市花愛好会では、
広く会員を募集しています。

愛好会は、「亀岡市花展示会」「市花つつじ栽培講習会」の開催をはじめ、会員相互の親睦と栽培技術の向上を目的に「先進地視察研修」などの活動を行っています。

会員には、展示会の開催時に競技花の苗木を配布しています。4年後、あなたが手塩にかけて育てた競技花を展示会に出品してみませんか。

少しでも興味をもたれた方、初心者の方の入会を歓迎いたします。

■詳しくは
愛好会役員、または愛好会事務局（公益財団法人
亀岡市都市緑花協会内 TEL.23-2289）まで、
お気軽にお問い合わせください。

市花愛好会役員			
役職名	氏名	住所	
会長	桂川 孝裕	亀岡市長	
副会長	小林 富夫	河原町	
"	齋藤 馨	北古世町	
総務	堤 清三	樟田野町	
会計	草野 良一	篠町	
監査役	奥村 和子	三宅町	
相談役	長谷川 政次	篠町	
幹事	岩崎 保雄	東つつじヶ丘	
"	飯田 美智子	篠町	
"	光嶋 健史	篠町	
"	石川 操	篠町	

市花つつじ栽培講習会

つつじは花後の手入れが大切なことから、市花愛好会役員が講師となり、6月13日に市役所玄関前と篠町自治会の2会場で、栽培技術を指導する講習会を開講しました。

この講習会では、会員が持ち寄った鉢植えのつつじを使って開花後の管理、剪定、針金を使った樹形づくり、植え替えなどの技術指導を丁寧に行い、市民からのつつじに関する育成相談にも熱心に応じました。

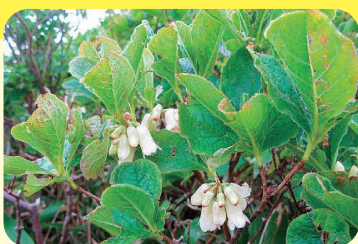


記念樹の手入れ

昭和40年5月につつじが亀岡市の花に制定されてから昭和41年を第1回として、以降、市花展示会を毎年開催しています。この展示会の第30回（平成7年）を記念して、市役所前バス停横に3本のヒラドツツジを植樹しました。

また、平成27年10月には、市花愛好会創立50周年を記念して、南郷公園内にキリシマツツジ・クルマツツジ・ヒラドツツジを、令和7年10月には、同会創立60周年を記念して、市役所にサツキツツジを植樹しました。

これらの記念樹を、花が終わった6月13日、来年も立派に花が咲くように願いを込め、剪定・周辺の低木刈込み・草引きなどの手入れを市花愛好会役員で丹念に行いました。



つつじの紹介

オオバツツジ (Rhododendron nipponicum)

種別：落葉低木 分布：東北〜北陸地方の日本海側 花期：6〜8月頃

特徴：秋田県から福井県の日本海側の山地の湿り気のある林縁や草地に生える。高さは1〜2mになる。葉は長さ5〜10cm、幅3〜8cmと大きくて薄く、枝先に集まって互生につき、無柄で倒卵形。6〜8月、枝先に新葉とともに5〜10個の花を散形状に開く。花冠は黄白色、しばしば先は赤みを帯び、筒形で長さ1〜1.5cm、径0.8〜1cm、先は5裂し、裂片は広円形。他に類縁のない日本固有の種類である。日本名のオオバツツジ（大葉ツツジ）は他のツツジ類より葉が大きいことから。